



いづみ

No.48

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 18



《風に舞う》

椎名 澄子

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 18 作者の言葉

東京、札幌、そして昨年春より拠点を移した旭川は、これまでの制作環境の中で最も四季の移り変わりを感じます。私を取り巻く空気感は柔らかく変化を遂げています。そのような中で制作したこの作品は、女性の優しさや清々しさを緩やかな風に舞い踊る葉として表現しました。

(椎名澄子)

タイトル：「風に舞う」

設置場所：ライフコート西野
(札幌市西区)

制作年：2013年

素材：ブロンズ

サイズ：W280×D240×H640 (mm)

連載 宮の森の四季 18

本郷新記念札幌彫刻美術館

明かり

梅内 親治

私は展覧会の展示照明の仕込みで心掛けていることがある。

作家さんの作品の意図は何か、どうしてこの形なのか、どうしてこの大きさなのか、どうしてこの素材なのか、設置の向きや展示空間について考えて作業をしている。そのために作家さんと時間をかけて話をする。作品で強調したいことや照明の希望も聞く。どこに照明を当てたら作品を生かすことが出来るのかを考えながら、当て方について作家さんにこちらから説明することもある。そして、限られた照明設備の中で、作品との距離・角度を考え、1灯また1灯と照明を仕込む。

一つ一つの作品に照明を仕込んだ後、展示室全体の照明のバランスも見ることにしている。バランスが崩れていると、展示室全体が落ち着きないと思うからである。

照明バランスを直して、作家さんの要望通りに出来た時に、作品の持ち味を出す重要な役割を果たしたと思うし、鑑賞者にとっても、作家さんの意図が伝わる照明になっていると思う。

私は、年に数回照明の仕込みを行うが、作家さんの意図が伝わる照明が出来た時は達成感があり、これからも作家さんの意図を考えて照明を仕込んで行きたいと思う。



「さっぽろアートボランティア・ネットワーク」がつむぐもの

西川 吉武

(さっぽろアートボランティア

ネットワーク代表／札幌くらぶ副会長)

皆さんの会報「いずみ」を拝見しました。素晴らしい活動が掲載され、情熱を見る思いでした。このような活動をしている皆さんに対して一市民として心熱く応援します。いい活動ですね！

この度、「さっぽろアートボランティア・ネットワーク」という団体を設立しました。この思いは尊敬する貴会の会長である橋本信夫先生のご指導の下、ともすれば自分たちの範囲で活動していたボランティアがネットワークを作り、手をつないでみたら何かできないだろうかと考えた結果です。皆さんにお聞きすると面白いことに、いくつものアートボランティアに所属している方がたくさんいます。アートには人の生きる根幹に関わる大きな力が共通して存在しているのではないのでしょうか。

この思いの原点は、あの忌まわしい3・11 東日本大震災でした。その日、仙台フィルハーモニーはイズミティ 21 (仙台市泉文化創造センター)のホールでゲネプロ(本番前の総練習)開始直前でした。大震災はホールを奪い、楽員さんたちの生活環境にも大きな爪痕を残しました。ライフラインが全滅という状況にもかかわらず、被災者でもある楽員さんたちが、失意の中の市民たちに音楽を届けようと被災地へ訪問演奏会に立ちあがりました。共に立ち

上がったのがSPC仙台フィルハーモニークラブ、札幌くらぶの仲間であるオーケストラを応援するボランティア団体でした。音楽の力が被災地市民を勇気づけたのは言うまでもありません。

3月26日には仙台フィルが立ち上がり、お寺の境内にあるバレエスタジオでの「つながれ心、つながれ力、復興コンサート(鎮魂そして希望)」でした。

札幌くらぶは、2006年に全国のプロオーケストラファンクラブをつなぐJOFC日本プロオーケストラファンクラブを設立していました。ただちに全国のファンクラブに対して仙台フィルを直接支援する、目的を明確にした募金活動を開始しました。これがボランティア・ネットワークの力だと思います。

全国にもめずらしいアートボランティアのネットワークが札幌に誕生しました。絵画も彫刻も音楽も演劇も、たくさんのアートをつなぎ札幌のまちをアート満載のまちにしたいと思っています。最初の活動として札幌国際芸術祭2014を応援し、会員の皆さんへ芸術祭の魅力をお届けしたいと思っています。

「つながったら何ができる?」「皆さんの声が大きくなります!」「皆さんの活動が市民にもっと見えてきます!」—このネットワークを皆さんの力で一緒に支えてくれませんか!

「アートって何？」—札幌国際芸術祭 2014 に寄せて

漆 崇博

(札幌国際芸術祭 2014 プロジェクトマネージャー
一般社団法人 AIS プランニング 代表理事)

約 10 年間、芸術文化に関わるプログラムの運営やコーディネートに関わってきた自分にとって、特に活動当初は、「アートは難解で不可解なものだ」「敷居の高さを感じる」など、比較的ネガティブなリアクションをいただいたことが多くありました。

そもそも自分自身が、美術館やギャラリーといったアートのためのフィールドではなく、小学校や商店街などの様々な人の営みや価値観が混在する生活の場でその活動を展開してきたことを考えれば、至極当然のことだったのかもしれない。

経験も知識もノウハウも持ち合わせていない、勢い任せで活動を始めた自分にとっては、そうした芸術に対する率直な疑問を持つ人たちの存在や、社会に対して必死に何かを表現するアーティスト(芸術家)との出会いは、大きな刺激であり、常に感情や思考を揺さぶられてきました。

アートは、その頃の自分にとっても、社会においても、ある種特別な存在であり、一般生活においてとりわけ身近なものではなかったのだと推測しています。

しかし最近は、そのアートを取り巻く状況が少し変わってきたように感じます。「アートとまちづくり」「子どもとアート」など、教育、福祉、地域振興、社会の様々な場面にアートが登場するようになりました。

そうした中で、今年の夏、札幌国際芸術祭 2014 が開催されます。

当初は、札幌国際芸術祭を開催することや、そのテーマに対して、多くの疑問がありました。

なぜ札幌で芸術祭を開催する必要があるのか、そもそも「都市と自然」というテーマが意味するものとは何なのか。

しかしそれは、アートに関わる活動を展開してきた自分が、10年前に他者に抱かせたアートに対する率直な疑問と同じ感覚を抱いたことに気付く瞬間でもありました。だとするならば、その中で自分が果たせる役割とは何だろう。芸術祭を通じて札幌がどのような状況になればいいのだろうか。様々な考えを巡らしながら、札幌国際芸術祭 2014 のプロジェクトマネージャーという立場で、ボランティア運営をはじめとするいくつかの事業に関わり活動することになりました。

私は、現代社会においてアートが生活の場に身近なものとして徐々に受け入れられていったように、札幌という様々な人の営みや価値観が混在する大きな生活の場を舞台に開催される芸術祭を通して、「都市と自然」というテーマから読み解かれた作品やプロジェクトに触れることが、様々な人たちの感情や思考を揺さぶり、私たちの未来の暮らし方や生き方を感知し、継承するきっかけになってほしいと願っています。

また、札幌の文化芸術の発展に寄与してきた方々や、これから新たな表現や活動を始めるようとする世代が、互いの思いや活動を知り、協働するきっかけが生まれること、そのために必要な環境や仕組みがこの芸術祭で生まれることを信じて日々活動していきたいと考えています。

わが心の「アルテピアッツア美唄」

佐藤 美保子（会員）

以前から彫刻家・安田侃さんの作品が好きで新聞などの記事をスクラップしていましたが、美唄市の彫刻公園「アルテピアッツア美唄」で「こころを彫る授業」という安田さんが直接指導をする講座があることを知り、「こころを彫る」というタイトルに心を動かされて申し込みました。2009年のことでした。

年に数回、安田さんから指導を受けることができるため、全国から申し込みが殺到し、参加者は抽選で決まりました。中には、この日のために九州などから飛行機で来る人も少なくないというほどの人気。札幌に住んでいる私にとって美唄までは小旅行となり、しかも初めての彫刻で不安を抱えながら、午前10時からの授業を受けるために7時過ぎのバスで札幌駅に向かい、特急に乗車、美唄駅からバスに乗り継いでアルテピアッツア行きでした。

授業はミケランジェロも使っていたという、安田侃さんの作品と同じ素材のイタリア産白大理石を選ぶことから始まります。イタリア製のハンドメイドのノミや金づちを使わせてもらい、大理石を削ります。マエストロと呼ばれている安田先生は3日間、1日中受講者の席をまわり、初心者の私にもノミと金づちの使い方を丁寧に指導して下さいます。（人生後半で、彫刻家になれる見込みは全くないので恐縮）

どんな形にしようか。なかなか決まらない。石と向かい合う時間、迷いながら彫り、そして削り、彫ってはまた迷う。石に語りかけてもなかなか答えは返ってこない。あたりではリスが木々を渡っていたり、どこからかイモリが寄ってきたり、虫の声、鳥のさえずり、風の語らい、川のせせらぎ一。日常とは違う空間でゆっくりと

時間が過ぎて行きます。小学生の女の子がお母さんと一緒に大人と同じノミと金づちで彫っています。可愛いが、しっかりとした意志のある姿勢に、つつい見入ってしまう。80歳を過ぎた女性も真剣に石と向かい合っています。自分もこのように年を重ねて行けたらとつくづく思ったりします。「イタリアからはるばる来た石だから削りたくない」と言って数時間石と向き合っている方もいた。わかる気がします。

毎月第1土曜日と日曜日の授業で、スタッフの方に指導を受け、仲間からもアドバイスを受けながら、長い時間をかけて制作し、数回目の授業で先生に見ていただき、ようやく作品となりました。

あれから5年。それは今も家の玄関に飾っており、友人にアルテの話をする時、見せてと言われますが、誰も飾ってある石に気が付いた人はいません。玄関にある唯一の外国産なのですが…。

春には桜が咲き、夏はイタリア産白大理石の玉石を敷き詰めた池に子供たちが素足で入り、楽しそうな笑い声をはじけます。秋、工房前がイチョウの落ち葉で敷き詰められます。靴底に落ち葉を感じながら、ざくざくと踏みしめて歩いて見ます。厳冬の冬、しんと降り積もる雪にも何故か胸があつくなります。

そんな四季折々の移ろい。生まれ育った故郷のようなそんな懐かしさを感じるこの聖地に私は心を癒され、何度訪れても飽きることはありません。この夏は白い玉石の聖池に子供たちと一緒に足を踏み入れてみようかな。そんな思いにかられながら、アルテピアッツア通いが続いています。

2014 年度友の会総会

劣化コンクリート彫刻の実態調査を重点に活動

役員改選で監査 1 人増員

札幌彫刻美術館友の会の 2014 年度総会が 5 月 10 日、札幌市民ホール(中央区北 1 西1)で開かれ、新年度の活動計画案、予算案などを審議、役員改選などを含め全 6 議案をすべて可決した。

総会の冒頭であいさつに立った橋本信夫会長は「友の会も今年で結成 32 年目。最近では社会評価も高まってきた。今年は友の会の会報、ホームページなどのメディアを活用してもっと評価を広めると共に、市民の立場からまちなかの美を輝かせる努力を重ねていきたい」と新年度に向けた抱負を強調した。

議事は永喜多宗雄さんを議長に選出、2013 年度活動報告案、同決算・監査報告を共に満場一致で承認した。2014 年度活動報告案では、札幌市内に点在するコンクリート彫刻の劣化状態を点検する実態調査を重点に行うほか、前年度に引き続き全道の野外彫刻カタログの編集作業の推進、野外彫刻の清掃保全活動の実施、彫刻学習会の充実、バスツアー研修などが提案通り可決された。また、総額 103 万8千円に上る新年度予算ではコンクリート彫刻調査費 15 万円ほかボランティア保険加入費など保全活動費 3 万円などが認められた。さらに野外彫刻実態調査特別会計総額 25 万1千円も可決した。さらに、今年度は役員改選期にあたり、監査を1人から2人体制にするとともに、新役員 5 人を含む 19 人の役員改選案を提案通り了承した。さらに監査の 2 人体制に伴い会則の一部を改正して総会を終了した。

講演「札幌市民にとって国際芸術祭とは」で白熱論議

総会終了後、今夏、札幌で開催する「札幌国際芸術祭」の端聡同祭地域ディレクター、漆崇博同プロジェクトマネジャーを講師に招き、芸術祭の詳細な展示計画の説明を受けた。質疑応答では会場から同祭へのボランティア団体への参加呼びかけが乏しい、もっと市民団体を網羅した形での芸術祭であるべきだとの意見があり、論議が盛り上がった。

2014—15 年度役員決まる
新任 3 人含め 19 人体制

*は新任
(敬称略)

- 会 長 橋本信夫
- 副会長 大内 和
- 〃 奥井登代
- 幹 事 松原安男
- 長峯慰子
- 猪股岩生
- 細川房子
- 高橋淑子
- 久本由美子
- 常田益代
- 岩崎恵美子
- 古田重雄
- 斉藤ミサヲ
- *佐藤美保子
- *高橋大作
- *高橋 宏
- *丹羽貴彦
- 監 査 吉田修子
- *関堂安司

なお、石川博司、佐々木保枝(監査)の 2 人が退任した。

彫刻清掃活動本番入り

高圧洗浄機が大活躍

シーズン中に延べ 16 ヶ所計画

今シーズンの彫刻清掃活動のふた明けともなる大通公園の「漁民の像」の清掃が5月9日行われた。像の設置団体と関連がある道信漁連からも3人が加わっての共同作業で、水洗いからワックスかけまで行き、美しさを取り戻した。次いで 25 日は真駒内地区での清掃作業。地下鉄駅前の「ひと休みする輪廻」(丸山隆)、「牛と少年」(佐藤忠良)、さらに、エドウィン・ダン記念館「エドウィン・ダン頭彫像」を順次、手際よく洗い終えた。

道立近代美術館前庭での清掃は30日、同館のボランティア団体である美術館協力会と共に行った。今回は初めて高圧洗浄機の使用が認められ、例年、彫刻下部と台座だけだった「嵐の中の母子像」(本郷新)は手の届かない細部まで汚れを落とすことができ、参加者も満足そうだった。「ブラシでこすってもきれいにならない」という館側の訴えがあった「近代美術館の碑」も高圧洗浄機で洗い、本来の白い花崗岩の台座がよみがえった。翌6月1日は中島公園での「鴨々川清掃」に参加。友の会のメンバーは公園内の彫

刻の解説をしたほか、札幌南高の生徒たちと「木下成太郎」像の清掃をはじめ、高圧洗浄機を使って「森の歌」(山内壮夫)の汚れを洗い落してすっきりさせた。



ことしの彫刻清掃のスケジュールは日程が決まっていないものを含め、秋までに延べ 16 回が予定されている。

友の会 HP をリニューアル

新システムで見やすく

友の会のホームページ(HP)がこのほどサイトのデザインを一新するとともに、会のホットな活動や情報をスピーディーにアップできるようになった。



担当者の細川房子さんによれば「コンテンツ・マネージメント・システム(CMS)」という、さまざまな機能を持ったシステムで、これまでより簡単に HP を作成、管理することが出来るソフトウェアになった

ので、今までより手軽に HP の更新が可能」という。

新しいサイトではこれまで通り「会の案内」「会の活動」「入会案内」「会員のページ」の項目のほか、目玉でもある「街中の美術館」を独立させて、ウェブ上で札幌市内の主要な彫刻を鑑賞できる。「会の活動」は写真をふんだんに取り入れ内容を充実した。ホームページのアドレスは下記。

<http://sapporo-chokoku.jp/>

「北海道芸術論評」に掲載
彫刻データベースの活用法

友の会が2012年度北海道芸術学会で発表した「野外彫刻の資料のデータベース化とその活用について」がこのほど発行された同学会の「北海道芸術論評」第6号に掲載された。

同学会からの要請で発表内容



を原稿にまとめたもので、道内各地域別の野外彫刻の数と材質、地域別の作家分布、今後のデータベース活用方法などにも触れている。友の会の地道な活動が学会誌に載るのは異例で、今後の活動の励みになりそう。

事務局日誌

▼4月10日＝4月定例役員会(エルプラザ)2014年バス研修計画、彫刻清掃プログラム、会報48号編集企画など▼14日＝IT関連企業「たま」と連絡会議(エルプラザ)彫刻地図利用について▼18日＝円山動物園と劣化彫刻について折衝▼26日＝新渡戸稲造と遠友夜学校を考える会に参加(細川)▼24日＝4役会議(エルプラザ)総会議案検討▼5月8日＝定例役員会(エルプラザ)総会準備ほか。札幌市助成金「創建まちづくり基金」の交付決定▼10日＝友の会2014年度総会(札幌市民ホール)終了後講演会▼14日＝大通公園「漁民の像」清掃▼25日＝真駒内第一公園、エドウィン・ダン記念館で彫刻清掃

編集後記

▼この夏、札幌で開かれる「札幌国際芸術祭」への市民の反応が鈍いという▼そんな中で総会後の講演会に関係者を招いた。会報でも直接の担当者である漆プロジェクトマネジャーに原稿をお願いしたほか、アートボランティアネットワークの西川さんにも執筆していただいた。友の会も微力ながら応援しなければとの思いを込めて。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.48

2014年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」48号 目次

自作自選18《風に舞う》	椎名澄子	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季18「明かり」	梅内親治	2
風見鶏「さっぽろアートボランティアネットワーク」	西川吉武	3
寄稿「アートって何?札幌国際芸術祭に寄せて」	漆崇博	4
レポート「わが心のアルテピアッツァ美唄」	佐藤美保子	5
友の会ニュース		6-7
2014年度友の会総会 彫刻清掃活動本番入り 友の会HP 面目一新 道芸術論評に彫刻DB活用法掲載		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

札幌芸術祭連携事業

■「New Eyes 2014

「Our Place～歩く・感じる・考える、私たちの生きる場所～」

開催中～9月28日(日)

◇出品作家 上嶋秀俊、小助川裕康、坂巻正美、進藤冬華
藤田真理、本郷 新

◇関連事業 ▼アーティストトーク①7月5日上嶋秀俊、小助川裕康
藤田真理②9月6日坂巻正美、進藤冬華、山本祐歳
▼布と糸のなりゆきワークショップ(詳細問い合わせ)
▼坂巻正美の車座談義(9月27日14:00～本館研修室)

記念館

■ミニ・コレクション展「本郷新と旅」 開催中～10月19日(日)

本郷新が2度の海外旅行で描いた異国の風景や人物スケッチを紹介

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です!ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>